

令和6年度 学校経営計画書

学校番号	40	学 校 名	科学技術高等学校 全日制	校 長 名	小野 聡
------	----	-------	--------------	-------	------

1 スクール・ミッション

進路実現を可能とする8つの専門学科を有する科学技術教育の拠点校として、大学や産業界との連携や技術技能系の資格取得等を通して、未来を切り拓く感性と創造力を培い、社会に貢献できる科学技術のスペシャリストの育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー

本校では、保護者や地域はもとより、全国の上級学校や産業界から信頼・期待される学校を目指し、以下のような人材を育成するとともに、必要な能力を身に付けます。

- 理工分野において高度な技術・研究開発に取り組むことができる人材
豊富な知識、優れた技術・技能及び豊かな教養を身に付け、それらを駆使して新たな価値の創造に挑戦する力【創造力】
- 生産工程等の改善・設計・開発に主体的に取り組むことができる人材
課題に立ち向かう姿勢と忍耐力を身に付け、その解決に向けて自ら考え、判断し、積極的に工夫・改善する力【課題解決能力】
- 柔軟な発想を持ち、将来、起業しようとする意欲のある人材
国際的な視点を持ち、多様な人々とのコミュニケーションを通して協働しながら、社会に貢献する力【人間力】

カリキュラム・ポリシー

本校では、進学・就職のどちらにも対応できるよう教育課程を編成し、探究的な教育活動を推進するとともに、個に応じた指導の充実を図っています。

- 高等教育への基礎学力の定着を図るため、毎日7時間授業を行います。
- 科学技術のスペシャリストとしての技術・技能を身に付けるため、最新設備での豊富な実験・実習を通して高度で専門的な学習を行います。
- 総合的な探究の時間（課題研究、理数探究）への主体的な取組を促すとともに、STEAM教育等の教科横断的な取組を実践します。
- 大学・企業等との連携により、ものづくり競技大会への参加や国家資格等の高度な資格に積極的に挑戦します。
- 希望者による語学研修を実施し、グローバル化への対応と国際理解教育を推進します。
- 進学補講やインターンシップなど進路体制を充実させ、幅広い進路選択の中から生徒一人一人に寄り添ったきめ細かな進路指導を行います。

アドミッション・ポリシー

本校では、このような生徒を求めています。

- ものづくりや科学技術に興味・関心を持ち、専門分野への就職や理工系大学等への進学を目指す生徒
- 工業に関する専門的な知識や技術の習得、資格取得などに意欲的にチャレンジする生徒
- 挨拶や身だしなみがしっかりでき、基本的な生活習慣が身に付いている生徒
- 自他を尊重し、コミュニケーションを大切にする生徒
- 部活動や生徒会活動、校外活動などに積極的に取り組む意欲を持つ生徒

様式第 1 号

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

「ものづくりを通して、未来を切り拓く感性と創造力を培い、社会に貢献できる科学技術のスペシャリストを育成する」を基本理念に、学校生活が活気に満ち、保護者や地域はもとより、全国の上級学校や産業界から信頼され、期待される学校を目標に、以下のような人材を育成する。

- ① 理工分野において高度な技術・研究開発に取り組むことができる人材
- ② 生産工程等の改善・設計・開発に主体的に取り組むことができる人材
- ③ 柔軟な発想を持ち、将来、起業しようとする意欲のある人材

ア 豊富な知識、優れた技術・技能及び豊かな教養を身に付け、それらを駆使して新たな価値の創造に挑戦する力【創造力】(①)

イ 課題に立ち向かう姿勢と忍耐力を身に付け、その解決に向けて自ら考え、判断し、積極的に工夫・改善する力【課題解決能力】(②)

ウ 国際的な視点を持ち、多様な人々と協働しながら、社会に貢献する力【人間力】(③)

エ 教育の質を確保するとともに、業務の適正化を図る観点から、教育課程の研究や特別支援教育体制の確立、教職員研修の推進、施設・設備の整備等に取り組む。【教育環境】(①②③)。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当 部署
ア	日常の学習習慣を定着させる。	学習指導要領の趣旨等を踏まえ、授業改善に取り組む。	・「授業に主体的に取り組んでいる」と答える生徒 90%以上 ・「授業の内容がよく分かる」と回答する生徒 90%以上 ・「教員は授業を大切にするとともに、分かりやすい授業を行おうと努めている」と答える保護者 80%以上	教務 学年 教科
		1 日の授業、課外活動、家庭学習の合計時間が 10 時間以上となる。	・ 1 日の合計学習時間が 10 時間となる生徒 50%以上 ・「学習と部活動等の課外活動の両立に努めている」と答える生徒 70%以上	
		教養力テストを継続する。	・教養力テストの実施	
		手帳や I C T 端末の活用等により、時間管理の意識を向上する。	・「生活習慣を整え、学習時間やスケジュールの管理ができています」と答える生徒 60%以上	
	個々の生徒のニーズに対応した進路指導体制を確立する。	進学補講等検討委員会の開催をとおして、分掌や学年、教科等が連携し、3 年間を見通した指導体制を確立、堅持する。 週休日や長期休業等を活用した課外補講を継続する。	・「自分の将来に対する夢や希望を持っている」と答える生徒 80%以上 ・「信頼できる先生がいる」と答える生徒 80%以上 ・「きめ細やかで適切な進路指導が成されている」と答える保護者 80%以上 ・国公立大学合格者 70 人以上 ・就職内定率 100%	進路 学年 教科

様式第1号

	部活動を効率的に実施する。	部活動の合理的・効果的な活動方法について研究し、実践する。	・「部活動に参加している」生徒 80% 以上 ・「学校が楽しい」と答える生徒 80% 以上 ・「部活動ガイドライン等を踏まえ、適切な指導ができた」と答える教員 90% 以上	生徒 全体
	生徒主体の活動を推進する。	生徒会が運営の中心となった取り組みを促す。	・生徒会が企画した事業の実施 年2回以上	
		地域連携・ボランティア活動への積極的な参加を促す。	・地域連携・ボランティア活動参加者の増加	
イ	探究的な教育活動を推進する。	課題研究への主体的な取組を促すとともに、STEAM教育等の教科横断的な取組を実践する。	・大学や企業等と連携し、全学科で実施	学科
	専門分野の能力を向上させるとともに、必要な資質を育む。	学科に関連する部活動を活発化させ、コンクールや各種競技大会への参加を推進する。	・全国大会出場、全国規模のコンクール等の入賞	
		国家資格等の高度な資格に積極的に挑戦させる。	・受験者数及び合格者数の増加	
		職業人に求められる倫理観を育む。	・全学科で技術者倫理に関する指導を行う。	
ウ	グローバル化への対応と国際理解教育を推進する。	希望者による語学研修を実施する。 校外の海外派遣事業等への積極的な参加を促す。	・「充実した海外研修ができた」と答える生徒 90% 以上	研修 英語
		海外の高校との交流を推進する。	・羅東高校(台湾)と連携し、交流を促進する	
		英語に関する検定の受験を促す。	・英語検定等の受験者数の増加 ・CEFR B1 及び A2 レベルの生徒数の増加	
	持続可能な社会の一員としての素養を育成する。	登校指導や部活動、ホームルーム活動等において、あいさつ運動を推進する。	・「挨拶がしっかりとできている」と答える生徒 95% 以上 ・「身だしなみがしっかりとできている」と答える生徒 95% 以上 ・「スマートフォン・携帯電話は適切に利用している」と答える生徒 80% 以上	生徒 学年 図書
		授業や学校行事等、教育活動のあらゆる場面を通して道徳教育を推進し、規範意識を醸成する。	・生徒一人当たりの年平均貸出冊数 2 冊以上 ・図書館来館者数延べ 6,000 人以上	
		本に親しみ、図書館を利用する生徒を増やす。		
		インターンシップ、保育介護体験実習の状況を分析し、改善・充実に取り組む。	・参加した生徒の満足度 90% 以上	
				委員会 学年

様式第 1 号

エ		資源の大切さを意識させるとともに、3 S 活動を推進する。	・「3 S の意味を理解し、積極的に取り組んでいる」と答える生徒 70% 以上	生徒 保健 総務 学年
		交通安全や防災に対する意識を醸成する。	・「交通ルールの遵守に心掛けている」と答える生徒 90% 以上	
	カリキュラム・マネジメントを推進する。	高大接続と新学習指導要領に関する研究を深める。 社会に開かれた教育課程を推進するための研究に取り組む。	・新しい教育課程の編成 ・学校運営協議会の検討をふまえ、社会に開かれた学校を具現化する	教務 教科 総務
	特別支援教育体制を確立する。	困り感のある生徒を早期に発見し、保健室、教育相談課、学年等が連携した支援を行う。	・「教育相談だより」月 1 回以上発行 ・1 年生全員を対象にしたカウンセリングを実施 ・個別の指導計画及び支援計画の作成	保健 教育相談
	教職員の資質・能力の向上を支援する。	各種研修会や研究会での成果の還元を促す。	・「研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた」と答える教員 90% 以上 ・授業参観した教員 70% 以上	研修 全体
		授業改善への意識を啓発し、実効的に推進する。	・授業力自己診断を実施した教員 90% 以上 ・「高校生のための学びの基礎診断」を含め、多様な測定ツールを用いて P D C A サイクルによる授業改善に取り組んだ教員 90% 以上 ・観点別評価を適切に実施していると答える教員 70% 以上	
		I C T 機器の整備を推進する。	・「日常的に授業で I C T 機器を活用した」と答える教員 60% 以上	研修 情報管理
	教職員のメンタルヘルスの増進及びコンプライアンスの徹底を図る。	メンタルヘルス及びコンプライアンスに対する意識を醸成する。	・メンタルヘルス及びコンプライアンスに関する研修を随時実施	委員会 研修
	学校教育活動に関する広報を充実する。	ホームページを積極的に更新し、魅力や情報を発信する。	・月 15 回以上更新	総務
		ものづくり教室の実施や校外でのイベント等への参加を推進する。	・全学科で実施	学科
	校務の円滑、かつ適切な実施を推進する。	校務で使用する文書・名簿等を共用できるよう整備する。	・全教職員が校務で共有サーバーを活用する。	情報管理
		業務改善に対する意識を啓発し、積極的に取り組む。	・「業務改善を心掛けた」と答える教員 60% 以上	全体
		施設・設備の整備、省エネ・省資源への取組を進める。	・点検の日を設け、P F I 担当者との点検を月 1 回以上実施 ・コスト意識を高め消費電力量を削減	事務